

温泉タンクシステム

下呂温泉は日本有数の温泉街の一つです。戦後の経済隆盛とともに観光客が急増した 1960 年代にその人気は定着しました。この時代には多くの新しい温泉宿が開業し、各施設がそれぞれ別の源泉を使用していました。これにより湯は急速に枯渇し、その持続可能性に対する懸念が生じました。この問題を調査し解決策を見つけるために 1969 年に保存協会が設立されました。

下呂市では 1974 年以来、集中タンクシステムにより温泉を管理しています。それぞれ 200-300 トンの容量を持つ 7 つの別々のタンクが稼働しています。システム全体で 10,000 メートル以上の配管があり、12 の源泉から温泉を引いています。これらのタンクを合わせると、商業用および個人用に毎分最大 3,400 リットルの水を供給できます。これにより 42 の水源から毎分 7,150 リットル以上の水を汲み上げていた 1970 年と比較すると水の使用量が劇的に減少したことになります。

少額の料金を支払うことで個人でも地元のタンクのポンプシステムを訪れ家庭に必要な温泉水を得ることができます。平均して毎日 100 人以上の住民が最寄りのタンクを訪れます。下呂市の温泉タンクシステムは天然資源保護のための持続可能性の意識付けと集団行動の一例です。